

# 長野市の中山間地域における農業集落の現状と課題

平成 25 年 2 月 今井 大樹

## 要旨

### 目的

中山間地域の集落は農産物の生産や国土保全に関して大きな役割を果たしている。しかし、近年は過疎化に伴い社会的活動が困難となり存続が、危ぶまれている「限界集落」が増え、集落の消滅が問題となっている。また、平成の大合併により合併地域内の格差も考えられる。そこで本研究では、長野市に吸収合併された、中山間地域の農業集落を対象に、現状と今後の課題を明らかにした。

### 方法

まず、長野市内の行政区域を対象にコーホート変化率法による人口推計を行い、人口減少と高齢化が特に進む行政区域を調べた。次に、その行政区域内の農業集落を対象に行った主成分分析結果と現在の高齢化率などを考慮し、農業や集落活動に今後問題があると考えられる農業集落を選定し、聞き取り調査を行った。以上の分析及び調査より中山間地域の農業集落の現状を明らかにし、今後の課題を検討した。

### 結論

コーホート変化率法による人口推計により、長野市の戸隠地域、鬼無里地域、大岡地域、信州新町地域、中条地域では、今後も人口減少と高齢化が特に進むことがわかった。さらに、農業集落別の主成分分析より、農業活動が衰退し、加えて高齢化率の高い、鬼無里地域鬼無里区域東京集落、大岡地域丙区域平集落、信州新町地域山穂刈区域外味藤集落、中条地域御山里区域伊折区集落の 4 つの農業集落を聞き取り調査の対象とした。4 つの集落は共通して高齢化と過疎化により集落活動や農業活動の維持に限界を感じていた。今後の課題としては、東京集落と伊折区集落は集落活動維持のために I ターン者や別居子が集落に戻ることによる高齢化の軽減、平集落は他集落と共同で集落活動を行うなど個人負担の軽減、外味藤集落は集落の活性化策と同時に居住者の福祉ケアが挙げられる。

指導教員 藤居 良夫 准教授